

(7) ひまわり 夏作物 キク科

【特 徴】

- ア 夏作物で、短期間で多量の有機物補給が可能である。
- イ 大麦あとでの水稻害虫の生息地排除や景観維持対策としても有効である。
- ウ キク科の1年生作物で、草丈は1～1.5m程度である。



◎ すき込み時の生育量

生重 (t)	乾物重 (kg/10a)	炭素量 (kg/10a)	窒素量 (kg/10a)	C/N比
3.1～3.4	400～500	190～210	6～8	23～33

※H20～21 農業研究所

【品 種】

- ・多様な用途の品種があるが、緑肥用の品種が望ましい。

【栽培上の留意点】

- ア ほ場の準備
 - ・初期の湿害に弱いことから、額縁排水溝を設置する等、排水対策を徹底する。
- イ 施 肥
 - ・基肥として窒素成分で4 kg/10a 程度を耕起前又は播種時に側条で施用する。
 - ※基肥を施用しないと生育量の減少が顕著である。
- ウ 播 種
 - ・土壌水分が高い場合は条件が良くなるのを待って、耕起→播種の一連の作業は1日で行う。
 - (播種時期)
 - 6月上旬～8月上旬とする。
 - (播種量)
 - 1.5～2.0kg/10a 程度とする。
 - ※播種量は標準的な量で記載しており、ほ場の排水条件等に応じて加減する。
 - (播種方法)
 - 散播：ロータリーで耕起後、背負式動力散布機等で均一に種子を散布し、ハローでほ場表面を浅く耕起し、覆土を行う。
 - ※鳥害防止と出芽率向上のため、覆土は必ず実施する。

条播：麦等のロール式施肥播種機等を使用し、播種深度3 cm 程度を目安に播種を行う。種子が大きいことから、目標の播種量になるように播種ロールの開度を調節する。排水対策として、片培土機を装着することで、作溝も同時に実施できる。

エ すき込み

- ・開花期頃を目安に、フレールモアで細断後、ロータリー等ですき込む。
- ※生育量が大きいと、回転軸に茎葉が絡みやすいため、茎葉が絡まった場合は必ずエンジンを停止し、鎌等で取り除く。
- ・開花期を過ぎると茎が硬くなるため、すき込み時期が遅れないよう注意する。

【後作物での留意点】

ア 水 稲

- ・基肥を慣行施用すると過剰生育による倒伏の危険性が高まるので、窒素量で2～5割削減する。ただし、リン酸・加里が不足する場合は土壌改良資材等で補給する。

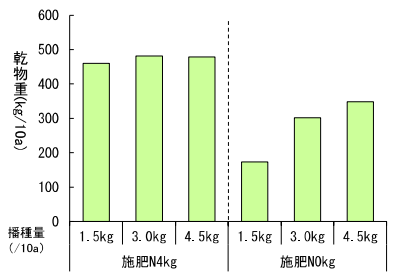


図 30 窒素施肥の有無による生育量の違い
(H20 農業研究所)

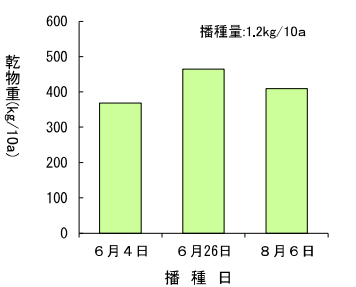


図 31 播種から約2か月後の乾物重
(H21 農業研究所)

